

「知事とのフレッシュトーク」（平成25年12月5日実施）の概要について

「知事とのフレッシュトーク」は、知事が高校生の皆さんと県の未来について意見交換を行うものです。

平成25年12月5日（木）に黒石市の県立黒石高等学校において実施した、「知事とのフレッシュトーク」の概要をお知らせします。

青森県立黒石高等学校の概要

大正14年に黒石町立黒石実科高等女学校として創設され、昭和23年に現在の青森県立黒石高等学校と改称。

全日制667名（普通科475名、看護科120名、専攻科72名）、定時制（普通科）43名が学んでいる。（生徒数は平成25年5月1日現在、定時制は平成25年度募集停止）

特に看護科は、高等学校3年間と専攻科2年間の5年間（最短）で看護師の国家試験を受験することができるのが特徴であり、平成17年度に専攻科が設置されて以来、平成18年度修了生から看護師国家試験の全員合格を達成している。

◆実習棟見学◆

会場到着後、知事は実習棟を見学しました。



◆開催◆

【校長歓迎のことば】

三村知事、ようこそ黒石高校にお越しくださいました。教職員並びに生徒一同を代表して、心から歓迎しますとともに、厚く感謝申し上げます。

知事は、全国各地で県産品のPRのためにトップセールスを行うなど、一貫して青森県の発展にご尽力されています。

さて、「知事とのフレッシュトーク」は、高校生と知事との意見交換を通して、県政について身近に感じてもらうとともに、高校生の新鮮な意見や発想、あるいは青森県に期待していることなどを把握することで、開かれた青森県政を一層推進し、さらに今後の県政を

運営していくうえでの参考にするために実施されるものであり、知事の人柄をよく表している事業です。

知事は、高校のほかにも小学校や中学校を訪問されるなど、大変気さくで若者の意見をとても大事になさる方です。

本日は、看護科の生徒との意見交換が中心になりますが、普通科の生徒の皆さんも、この機会に青森県政を身近なものとして感じてもらい、関心を深めてくれれば幸いです。

「知事とのフレッシュトーク」が、皆さんにとって、有意義で心に残るすばらしい学びの機会となることを切に願います。

三村知事、本日はよろしくお願いします。

【知事あいさつ】

みなさん、こんにちは。

先ほど、看護科と専攻科の実習棟を見学し、実習器具の体験をさせていただきました。

未来を切り拓いていくのは、常に若い世代の皆さんであると考えています。高校、中学校、小学校それぞれの世代に新しい変化があり、だからこそ、それぞれの学校に出かけて意見交換をさせていただき、皆さんが思っている未来、皆さんが感じている疑問や矛盾などから、県政の課題を見出し、未来に対して責任ある方向性を示したいと思っています。

そして、皆さんからのフレッシュな意見を聴くことによって、常に感性を磨いていくことが、県政にとって大切なことだと思っています。

今日は、看護科の皆さんを中心に意見交換をすることになっています。皆さんの疑問に答えながら、私たちとしても、県ではこんなことを考えています、一緒に頑張りましょうといったお話ができれば嬉しいです。

未来はここにある、未来はここから始まるという思いで、皆さんとより良い時間を持ちたいと思います。よろしくお願いします。



【学校（看護科）紹介】

説明者（専攻科 1 年、女子、2 名）

それでは、看護科について説明させていただきます。

本校は、青森・岩手・秋田の北東北 3 県の公立高校では唯一、看護師を養成する学科があり、平成 14 年度から 5 年一貫教育を行っています。5 年一貫教育とは、高等学校看護科の 3 年間と専攻科 2 年間を合わせた 5 年間で看護師を養成するための教育を行うものです。本校の看護 5 年一貫教育では、中学校卒業後、最短の 5 年で看護師国家試験の受験資格を得ることができます。1 期生から 7 期生まで合計 235 名の専攻科修了生を送り出しており、専攻科修了生全員が看護師国家試験に合格し、県内外の医療機関で活躍しています。

高等学校では、国語、数学、英語などの普通教科と、看護に関する基礎的、基本的な科目を学びます。高校3年間で修了すると、高等学校卒業の資格が与えられ、専攻科へは無試験で入学することができます。

専攻科では、豊かな人間性を養うための教養科目と、高校よりもさらに専門的な看護に関する科目を学びます。専攻科を修了すると、看護師国家試験の受験資格が得られます。この国家試験に合格して、初めて看護師として医療機関で働くことができます。

それでは、看護科での学習を学年ごとに説明します。

高校1年生は、普通科目のほかに、基礎的な専門科目を学びます。校内で実習を行い、看護師役と患者役の体験をし、患者さんに実施するための基礎的な技術を身に付けます。

高校2年生になると、専門科目が増えるとともに、病院での実習が始まります。校内での実習もさらに専門的になり、注射や点滴など、医師の診療補助を行うための技術を身に付けます。

高校3年生になると、専門科目はさらに内容が高度になります。病院実習では、患者さんを受け持ち、校内実習で身に付けた知識と技術を実践します。

専攻科1年生では、高校で学んだ基礎、基本を基盤とし、より高度で専門的な知識と技術の習得を目指します。講義は看護科の職員のほかに、医師、看護師、薬剤師などのメディカルスタッフに加え、大学教授や専門家を招いて、よりハイレベルな内容を学びます。校内実習や病院実習もより高度に、より専門的になり、実習する施設も黒石病院のほか、国立青森病院や鷹揚郷弘前病院、弘前市立病院など、6施設にわたっています。

専攻科2年生では、5年間の集大成として、目指す看護師像に近づくための学習や実習を行います。また、看護師国家試験に向けた取組を行い、看護師として必要な知識をしっかりと身に付けるための学習を行います。

5年間の学習を修了すると、看護師国家試験を受験することができ、試験に合格して初めて看護師として就職することができます。

これまで黒石高校を卒業した先輩は、全員が看護師国家試験に合格しています。先輩たちのほとんどは、看護師として医療機関で活躍していますが、先輩の中には、卒業後、専門学校に進学し、助産師や保健師の資格を取得して頑張っている方もいます。

看護科を希望して入学してきた生徒たちは皆、将来に向けての職業意識が高く、目的意識をしっかりと持ちながら高校生活を過ごしています。将来、看護師という職業に就きたいという明確な目的を持った仲間と出会い、目標を共にしながら5年間学ぶことのできる黒石高校の環境は、看護を学ぶに当たり、とても有意義であると感じています。

これで看護科の紹介を終わります。



知事

ありがとうございました。

とても実践的な教育を受け、高い志を持っていること、そして、看護師国家試験に全員

合格されているだけではなくて、皆さんが将来に向けて本気で学んでいることが伝わってきました。

【意見交換】

発言者 1（看護科 3 年、女子）

県内では、看護師養成を行っている看護大学、看護短期大学、看護専門学校が 15 施設あり、その中で、5 年一貫で看護師養成教育を行っている高校は、本校を含む 2 校のみとなっています。

看護科の紹介や施設見学をされてみて、本校で行われている 5 年一貫教育について、どのような感想を持たれましたでしょうか。

知事

先ほど、実習棟を案内していただき、ベッドが置いてある教室を見学したり、模型を使って脈を測る体験をさせていただきました。教育の仕組みとして、実践的なことに取り組んでおり、カリキュラムが良くできていると感じました。

そして何よりも、高校生の時からしっかりと基礎を学び、専攻科の 2 年間でより専門的な実践を行うことで、卒業した全員が国家資格を取得してくれていることを嬉しく思いました。

ところで、将来は国家試験を取得して看護師になってくれると思いますが、青森県で頑張ってくれますか。

発言者 1

はい。頑張ります。

知事

ぜひ、青森県に残って活躍してください。

皆さんそれぞれの人生なので、いろいろな場所でチャレンジしたいという思いはあると思いますが、できれば青森県に残って頑張ってくれると嬉しいです。

ここで、中南地域県民局の地域健康福祉部長を紹介します。青森県の医師確保対策監として、私とともに、青森県の医師確保のために全国を駆け回ってくれています。

中南地域県民局地域健康福祉部長

看護職は、人と接する仕事ですので、コミュニケーションがとても大事な仕事です。皆さんの顔を見ると、学校生活が楽しい、自分の将来に向かっていくぞという気持ちが伝わってきます。黒石高校は、生徒の皆さんの活気が感じられる学校だと思いました。

発言者 2（専攻科 1 年、女子）

5 年一貫教育課程で看護を学んでいる中で、さらに専門性を高めたい、学びを深めたいと思い、大学への進学を考えても、今の段階では大学への編入制度が確立されていません。

文部科学省が行ったアンケートでは、5 年一貫教育課程で学ぶ学生のうち、15%が「大

学への編入や進学を考えたいと思っている」という結果が出ました。

大学への編入に関して、制度の確立を進めてほしいと思いますが、知事の考えをお聞かせください。

知事

皆さんが、熱意を持って本気で学んでいて、もっと上を目指して学びたいという気持ちは、本当に大事なことだと思います。

制度的な部分もあるため、詳しい回答は難しいかもしれませんが、単位の問題等もあり、現状では厳しい面もあると思います。ただ、皆さんの熱意は十分に伝わってきます。

ここで、教育庁からもコメントをお願いします。

教育庁職員

まず、編入学も考えているという向学心の高さに感心しました。

残念ながら、学校教育法という国の法律があり、その法律の下では、現在、高等学校の専攻科から大学への編入学はできない状況にあります。

ただ、国においては、高等学校専攻科の学習内容に対する大学での単位付与等が検討課題となっているところです。

皆さんのように向学心の高い方が、制度上、大学へ編入学ができないことは、本当に残念に思いますが、ぜひ、青森県で地元を支える立場として活躍していただきたいと思います。

知事

現状では、改めて大学受験をすることは仕方がないと思いますが、仮に大学に進学した際、今持っている単位を使えるかどうかは、検討課題になっているということです。

ただ、看護師の国家資格を持っている優れた大学生であるとも言えますので、進学する気持ちがあればチャレンジしてください。

校長先生からもアドバイスをいただきましょう。



校長

全国看護高等学校長協会の話だと、文部科学省では、できるだけ今お話のあった内容で進めたいとのことです。ただ、この問題については、文部科学省だけではなく厚生労働省との調整も必要とのことであり、正確な年次は申し上げられませんが、会議の雰囲気では、あと4、5年で方向性が見えてくるのではないかとのことです。

知事

現在、制度の谷間にあるようなので、もしかしたら4、5年経つと単位も認められていくようになるかもしれません。看護師を目指して、引き続き実習を頑張ってください。

発言者3（看護科3年、男子）

青森県は平均寿命が全国で一番短く、さらにがんや心臓病に罹る確率が高いなど、現段階では、全国に比べると健康水準が低いと感じます。知事はこの青森県の現状をどのように考えていますか。

また、どのような対策を考えていますか。

さらに、私たち高校生や若者にどのような取組を望んでいますか。

知事

皆さんにお願いしたいのは、野菜をたくさん食べてほしい、その一言に尽きます。

青森県の課題は、短命県からの脱却です。毎年改善はしていますが、それ以上に全国の実態も良くなっています。このような中、本県と、健康に関する指標でトップクラスにいる長野県と沖縄県とで、10月に「平均寿命サミット」というイベントを開催し、お互いにどのようなことが課題であるかを意見交換しました。沖縄県の方からは、沖縄ではお年寄りが皆元気ですごく健康ですが、40代から下の年代になると、肉や油っぽい食べ物をたくさん食べているので、あと20年経つと青森県と同じ状況になるという話があり、それを聞いていた長野県の方が、野菜をたくさん食べるといいですよと言っていたのが印象に残っています。

青森県が短命県であることの背景には、日本で一番お酒を飲み、日本で一番煙草を吸い、日本で2番目に塩分の摂取量が多いなど、食生活を含めた生活習慣が大きく関わっています。また、健康診断をなかなか受けてくれないために、大きな病気に気がつかずにいるということもあります。ですので、我々とすれば、お酒や煙草を控えてもらったり、食生活改善運動を行うなど、地道な取組を頑張っているところです。

生活習慣病は、日常生活の積み重ねによるものなので、今からでも、一人ひとりが健康について、自分自身の問題として真剣に考えてくれると嬉しいです。

特に、下北地域では、他地域に比べて肥満者の割合が高いので、市町村と県民局などが連携して、小学生の頃から食育活動、食生活改善運動をしていこうと取り組んでいます。

また、9月に開催した「健康あおもり21ステップアップ県民大会」では、黒石高校の生徒からも、「ふるさとへの思い」というテーマで発表してもらっています。急で申し訳ありませんが、発表した方は、ここまで来ていただいて、どんなことを発表したのか皆さんに紹介してくれませんか。

発表者（普通科1年、男子）

青森県が短命県という問題を抱えている中、長野県では県を挙げて減塩対策などに



取り組んだ結果、平均寿命でナンバーワンに輝いているので、青森県としても、ぜひ、県を挙げて対策に取り組んでほしいという発表をしました。

知事

ありがとうございます。

食生活の改善については、県庁職員が、塩分摂取の問題を何とかしようということで、調理師やレストランのシェフ、スーパーマーケットの惣菜部門の担当者など、いわゆる外食、中食関係者に呼びかけ、塩分を減らした、昆布や焼き干しなどのお出汁や酢を使った健康に良い食べ物を提供しようという、「あおもり食命人（しょくめいじん）育成事業」に取り組んでいます。（※あおもり食命人：「新鮮で安全・安心な旬の県食材を活かした健康的な食事（＝いのちを支える食）を作る人」を意味する造語）この取組の中で、青森の食材を使った低カロリー弁当を開発したほか、「あおもり食命人」がいる店舗を紹介したりしています。このように、関係者が協力しながら、塩分を減らしておいしく食べられる仕組みづくりに取り組んでいます。

皆さんへお願いですが、できれば各家庭でも塩分を減らした食事ができるように、お母さんやお婆ちゃんにも伝えていただけると嬉しいです。

ここで質問ですが、塩分を多く摂っていると、体にどのような問題が出てくるでしょうか。

発言者2

高血圧になると思います。

知事

そうです。高血圧になると、血管が切れやすくなったり、腎臓疾患になったりします。腎臓疾患になると、人工透析をしなければならなくなり、大変ですよ。

あと、脂っぽいものを食べ過ぎると、どのような症状になるのでしょうか。

発言者5

肥満になり、血管も詰まりやすくなります。

知事

血管が詰まると、脳梗塞などにもなりやすくなります。青森県では、生活習慣病により、50代の方がこのような症状で亡くなるケースが多いという問題があります。

また、先ほども話をしましたが、皆さんも30代からまめに健康診断を受けた方がいいです。若いからと言って全く健康診断を受けずにいたせいで、糖尿病に気がつかないまま、ある日突然、目が見えなくなったり、最悪の場合、足を切断しなければならないほど症状が悪化していることもあります。

中南地域県民局地域健康福祉部長

皆さんは、「ヘルスリテラシー」という言葉を聞いたことがありますか。初めて聞く方も

いるかもしれませんが、多くの方は、塩分を摂りすぎると高血圧になったり、油っぽいものを食べ過ぎると太るということを分かっていると思います。分かっているけどやめられないという、この悪循環を止めようと、青森県では、皆さんに健康に関する知識と実行できる力を持っていただくための取組を行っています。

「ヘルスリテラシー」は、直訳すると「健康教養」ということになりますが、皆さんがイメージしやすいように、青森県として『健やか力』という言葉に置き換えて取り組んでいます。皆さんも、家族や友人など、いろいろな方に自分の持っている健康に関する知識を提供したり、一緒に行動していただけると嬉しいです。若い人たちの死亡率が減ると、青森県の平均寿命は上がってくると思います。

知事

私自身、健康のために昼食の量を減らしたり、朝は果物を食べるようにしたところ、健康診断の結果が良くなりました。

発言者 4（専攻科 1 年、女子）

高齢化社会が進み、高齢単身世帯や高齢夫婦世帯の割合が増えてきています。その一方で、医療に関しては高齢化が進んでいる地域ほど医療体制が整っておらず、医療を必要とする高齢者が適切な医療を受けられない現状にあると思います。

そこで、青森県の課題としての医師不足や高齢化社会における医療体制をどのように整備していくのか、お聞かせください。

知事

全国的に、人口減少と高齢化が進んでいます。今、医師不足の話がありましたが、医師数は、平成 22 年の数値では、10 万人当たり 219 人というのが全国平均となっています。青森県の場合は、182.4 人となっています。東北の中では、宮城県が 210.4 人で最も多いですが、それでも、東北全体では医師が不足しており、例えば、公立病院では、産科、小児科、脳外科など、いろいろな診療科目で医師が不足している状況にあります。

このため、10 年くらい前から、全国を回り医師のリクルートをしていましたが、逆に青森県の医師がリクルートされたりすることもあるため、考え方を抜本的に変えて、医師を育てる、要するに、青森県から医学部にたくさん進学させようと考えました。

県では、医師一人ひとりの人生における、例えば、研修医から始まり、指導医、部長、院長へとステップアップしていく過程を応援する仕組みとして、「良医を育むグランドデザイン」を策定し、様々な取組を行っています。

その中で、医学部志望の生徒に集ってもらい、夏休みや冬休みなどに受験に向けた特訓を行ったり、中学生や高校生の段階から、医師の仕事は命を守る、命と向かい合うすばらしい職業であるということを感じてもらうために、外科手術や医療機器操作の体験をするセミナーを開いたりしています。その結果、40 名前後であった本県出身の医学部合格者数が、平成 20 年には倍近くの 72 名になりました。平成 25 年は 92 名も合格しています。

今までの医師確保の経験で思ったことは、青森で生まれ育った人は、県外で医師になったとしても、青森に帰ってきてくれる確率が高いということです。とても偉い先生になってから地元に戻ってきて、地域医療に取り組むなど、志が高い方が多いです。ですので、青森の子どもたちにどんどん医学部に進んでもらいたいと考えています。

医学部は卒業まで6年かかり、そこから2年間の研修期間があるので、8年経たないと具体的な成果が見えてきませんが、今後、平成20年に合格したグループが病院に入ってくるようになると、青森の医師も増えてくると思います。

中南地域県民局地域健康福祉部長

以前、ある学校の校長先生から、医師になりたい、あるいは看護師になりたいという生徒は結構いますが、モチベーションをずっと維持し続けることが難しいという話を聞きました。気持ちが強ければ強いほど、きちんと大学には合格するというお話だったので、中学生や高校生のうちから、医療の現場を知っていただいたり、医師や看護師の仕事ぶりを見ていただくことで、自分は医者になるんだ、看護師になるんだという気持ちが維持され、試験勉強も頑張れるのではないかと思います。

皆さんには、青森県を担う「人財」として、いろいろなところで活躍する場面があると思いますが、特に医療の現場では、皆さんの力をとても必要としています。

また、「良医を育むグランドデザイン」の取組の中では、医師なった後でも、きちんと医療の勉強が続けられる環境づくりもしています。

看護師から医師へと目標が変わっても構いませんので、一緒に青森県の医療を守っていきましょう。

知事

約10年間、地道ながらも医師を育てる取組を進めてきました。これからは、医学部に進み、医師を目指してくれる方が増えてくると思いますし、医師を支える看護師の方にも青森に残っていただけるような仕組みづくりについても一生懸命取り組んでいます。

私は、毎年、弘前大学医学部のオリエンテーリングに行って、学生と意見交換をしています。医学部1年生のオリエンテーリングに行った際、医師の卵として勉強している学生から、「私は、高校生の時、知事の話聞いて、医師になって青森県を守りたいという気持ちになりました。」と言われ、とても感動しました。医学部5年生のオリエンテーリングでは、学生の皆さんの志も一人前になっていて、「私たちのキャリアを活かすために、どのようなことをしてくれますか。」「女性医師の活躍の場をどのように考えていますか。」といった頼もしい意見も出ています。

黒石高校看護科の皆さんにおかれては、医師の最高のパートナーとして、県民の命を助ける仕事をしてくれると嬉しいです。

発言者5（専攻科1年、女子）

青森県は看護師不足と言われていますが、県内の公立医療機関の就職は、県外に比べると厳しいのが現状です。

看護師の人材確保に関して、知事の考えをお聞きしたいと思います。

知事

皆さんが学んでいる黒石高校も含め、県内にある様々な看護師養成学校の卒業生は、県外、首都圏からの募集時期が非常に早いこともあり、県内には約62%しか就職していない状況（平成25年3月現在）です。東京にある女子医大やがんセンターで勤務してみたいという、皆さんの気持ちを止めることはできませんが、現在、看護師の方に青森に残っていただくための戦略づくりを進めています。



青森県の看護職員数は、全国の水準に比べると、それなりに確保できてはいますが、実際に必要とされる人数を下回っており、県内ではまだ足りないと思っています。このため、県では、「青森県看護師等確保推進会議」を設立して、県内の看護師を確保するためのプログラムの策定を検討しています。看護師の方が青森に残る気持ちになってもらうことが一番大事であり、関係機関が連携して、研修も含め、もっと高度なことを覚えたいという要望にも対応できるような仕組みづくりをしたいと考えています。

例えば、青森県立保健大学などでは、より専門性を高める講座もありますので、このような研修の仕組みを利用して、技術を高めることができるようにしています。また、県外から青森へのUターンを希望している方のための取組も行っています。

健康福祉部医療薬務課職員

黒石高校の卒業生は、県内の医療機関からの評価が高いと聞いていますので、ぜひ、多くの方に県内への就職をしていただきたいと思います。仮に他県に就職されたとしても、Uターンで青森に帰ってくる方もたくさんいます。青森県ナースセンターでは、職業紹介や再就業の支援をしています。結婚や出産などで看護職を一度辞めたとしても、県内の医療機関でいつでも受け入れができる体制を整えていきたいと思っていますので、県外から帰ってきて、また看護師として働きたいという場合には、ご相談ください。

知事

私から、黒石高校の全校生徒の皆さんにお願いがあります。

今の時代、健康づくりは子どもの時から必要であり、皆さんの年代からでは遅いぐらいだと思っています。青森県にはおいしい野菜がたくさんありますので、皆さんにおかれては、『健やか力』を意識して、りんご以外にも野菜をしっかりと食べてくれると嬉しいです。

【知事所感】

今日は、看護科の皆さんとお話をさせていただき、将来に関わることも含め、自分の進むべき仕事に志を持っているからこそ、青森県はこんな短命県でいいのか、しっかりと健康づくりをしなくてはいけないという意見をいただきました。

また、私からは、医師や看護師の方が県外に行っても、将来青森県に帰ってきてほしい、

そのための戦略を立てているといった話をさせていただきました。

看護師は命を守る仕事ですが、人の命が失われる場面にも立ち会う厳しい仕事でもあります。だからこそ、志が高く、あるいは心も強くなければいけない仕事だと思います。そのような場面であっても、黒石高校で5年間一緒に学んだ同期の仲間が、皆さんを励まし、支えてくれると思います。

将来にわたって付き合っていける仲間がいるということのすばらしさを、ぜひ、皆さんも感じてくれると嬉しいです。全校生徒の皆さんにおかれても、高校時代の友人は、生涯付き合う場合が多いので、仲間を大事にしてください。

健康は、自らのために、自らが取り組んでいくということを、これからも一緒に考えていきたいと思います。

今日は、未来の夢に向かって一生懸命学んでいる皆さんと意見交換ができて、とても嬉しかったです。ありがとうございました。



以上